



この子を救う。未来を救う。



カンボジアの子どもたち

World Vision

この子を救う。未来を救う。



グアテマラのミンディちゃん

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
2023年度 年次報告書

2024年3月発行

発行 特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F
TEL: 03-5334-5350(代表) FAX: 03-5334-5359
HP: www.worldvision.jp
郵便振替 00130-6-254059

当団体は認定NPO法人です。皆さまからのご寄付は寄付金控除等の対象となり、税制優遇措置を受けられます。
本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを固く禁じます。

ワールド・ビジョン・ジャパン2023年度
年次報告書

World Vision Japan Annual Report 2023
2022年10月 - 2023年9月

“何もかも”はできなくとも、
“何か”はきっとできる。

2023年度 年次報告書 目次

数字で見るワールド・ビジョン・ジャパン …	03
2023年度 活動マップ …	05
チャイルド・スポンサーシップのしくみ …	07
チャイルド・スポンサーシップによる事業…	09
募金や他団体との連携による事業 …	13
国内での事業 …	17
アドボカシー …	18

企業・団体との連携 …	19
広がる支援の輪 …	21
皆さまとともに …	22
トルコ・シリア大地震の緊急支援 …	23
2023年度 会計報告 …	24
2023年度 支援事業一覧 …	27
ワールド・ビジョンについて …	29

基本理念

私たちはキリスト教精神に基づいて活動します
 私たちは貧しい人々のために献身します
 私たちはすべての人を価値あるものとします
 私たちは仕えるものです
 私たちはパートナーです
 私たちはすぐに対応します

ごあいさつ

日ごろより、世界の子どもたちをご支援くださり誠にありがとうございます。心からの感謝を申し上げるとともに、2023年度ワールド・ビジョン・ジャパン年次報告書をお届けいたします。2023年度も世界情勢の悪化が人道危機に拍車をかける状況が続きました。紛争、物価高騰、気候変動は新たな食料危機を生み、世界で飢餓に直面する人の数は8億人を超えています。そのような中、ワールド・ビジョンでは世界各地の危機対応が終息しないまま、別の場所で新たな危機対応を開始して、「世界で最も弱い立場にある子どもたちに寄り添い続ける」という使命のもと、世界中のスタッフが丸となり力を尽くしています。揺らぐことのない使命とならび、世界中で展開している長期の地域開発プログラムや、緊急人道支援事業の活動基盤と知見の蓄積が、危機に揺れ動く世界で、ワールド・ビジョンの機動的な活動を可能としています。活動の基本の支援プログラムであるチャイルド・スポンサーシップを通じては、世界で320万人の子どもたちを、ワールド・ビジョン・ジャパンでも92,250人の子どもたちを支えています。これもひとえに、皆さまのご支援のおかげと、改めて心より感謝申し上げます。私は、2023年10月にワールド・ビジョン・ジャパンの理事長に就任しました。1992年からこれまで、17年間の事務局長職を含め、ワールド・ビジョン・ジャパンの働きに従事してまいりました。決意も新たに挑戦を続けてまいります。今後とも皆さまの尊いご支援を賜りますようお願いいたします。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
理事長

片山 信彦



特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
理事/事務局長

木内 真理子



2023年9月に、同年2月に発生した大地震で甚大な被害のあったトルコ共和国南部ハタイ県を訪れた際、ある仮設住宅で双子の姉妹と出会いました。この姉妹の自宅は地震で倒壊し、しばらくは親戚の家に身を寄せていたようですが、その後、家畜小屋での生活を余儀なくされたそうです。思わず言葉を失いました。この1年も、災害、終わらない紛争、気候危機、価格高騰の影響が最も弱い立場にある子どもたちと人々を直撃しました。しかし現場で私たちが目にしたのは、逆境の中でも、子どもたちが少しずつ日常を取り戻し、貧困や格差にある厳しさから一歩ずつ脱却する力をつけ、昨日より明るい今日を迎えて、未来への希望と夢をもって進もうとする姿です。冒頭の双子の姉妹は、今は仮設住宅に住み、一人は医師、一人は検察官になって正義のために働きたい、という夢を持っています。2023年度、ワールド・ビジョン・ジャパンは、74億6千万円にのぼる資金や物資を皆さまからお預かりしました。日本で厳しい状況にある子どもたちへの支援も拡げています。ご紹介した姉妹のような子どもたちの強さ、そして、尊いご寄付を託してくださる皆さまの信頼が、私たちに勇気をくださっています。心から感謝申し上げます。世界の子どもたちが豊かないのちを生きられる平和な世界を目指して、これからも挑戦してまいります。変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

ビジョン・ステートメント

私たちのビジョンは、
 すべての子どもに豊かないのちを
 私たちの祈りは、
 すべての人の心にこのビジョンを実現する意志を
 Our Vision for every child, life in all its fullness
 Our Prayer for every heart, the will to make it so

ミッション・ステートメント

ワールド・ビジョンはキリスト教精神に基づく
 国際的なパートナーであり、イエス・キリストにならない、
 貧しく抑圧された人々とともに働き、人々の変革と、
 正義を追求し、平和な社会の実現を目指します。
 私たちは、このミッション実現のために、
 総合的かつ全体的な方法で、右の働きを行います。

- 変革をもたらす開発
- 緊急人道支援
- 正義の追求
- 教会とのパートナーシップ
- 情報提供
- スタッフの生活、行動等を通じたミッション・ステートメントの実践

数字で見る

ワールド・ビジョン・ジャパン

ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)の活動は、「開発援助(チャイルド・スポンサーシップ等)」、「緊急人道支援」、「アドボカシー(市民社会や政府への働きかけ)」の3本柱です。ここでは、世界で活動するWVJの2023年度の活動概要を、数字でご紹介します。



活動国・事業数



活動を数字

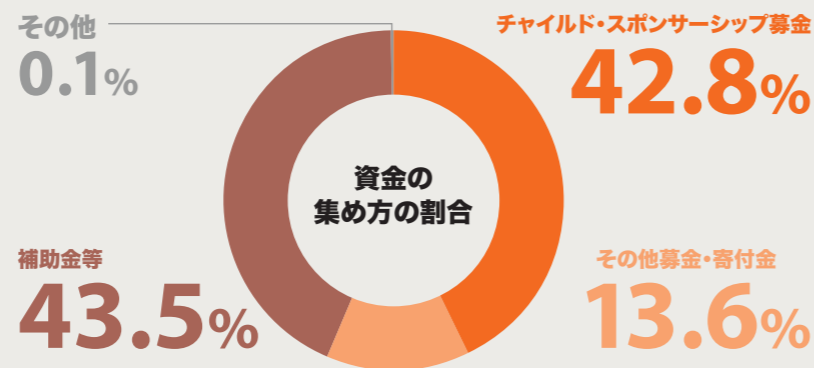


資金の集め方

2023年度の経常収益
詳しい会計報告はP24をご覧ください。
74億6,248万円

資金の集め方とその割合

WVJに寄せられる資金の約4割は、チャイルド・スポンサーシップによるものです。その他、水と食糧のための募金や難民支援募金、国際機関や政府等からの補助金によって活動しています。



資金の使い方

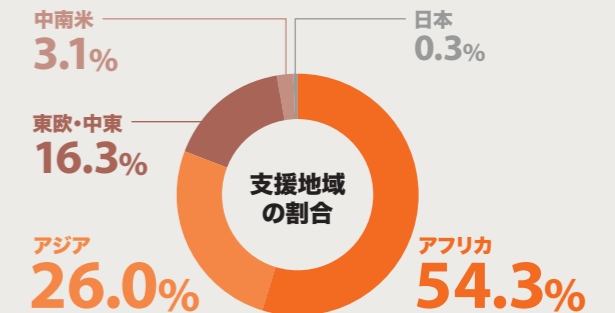
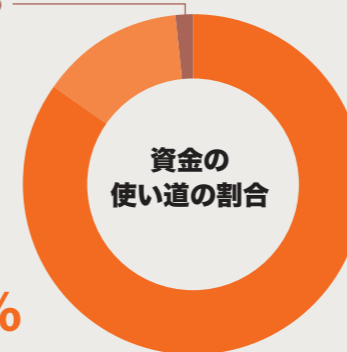
2023年度の経常費用
詳しい会計報告はP24をご覧ください。
72億9,045万円

資金の使い道とその割合

団体の運営・管理のため
1.5%

広報活動のため
13.6%

現地事業活動のため
84.9%



ワールド・ビジョン・ジャパンは 世界37カ国で169の事業を 実施しました

すべては子どもたちのために。ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)は、チャイルド・スポンサーシップ等による開発援助、緊急人道支援、アドボカシーを活動の3本柱として、2023年度は世界37カ国で169の事業を実施しました。



各国駐在スタッフ(2023年度) (2022年10月~2023年9月発生效)

渡邊 裕子	ヨルダン	2015/3~
服部 紗代	ヨルダン	2019/9~2023/4
宮内 繭子	ラオス	2019/11~2023/5
大沢 歩	タンザニア	2019/12~2022/10
李 義真	カンボジア バングラデシュ	2021/2~2023/4 2023/7~
小園 若菜美	ベトナム ラオス	2022/4~2023/4 2023/5~
古田 ちあき	イラク	2022/10~
古徳 理歩	ウガンダ	2023/3~
池之谷 理恵	ヨルダン	2023/4~
遠藤 拓海	ケニア	2023/8~

アフリカ

開発
援助



支援する小学校の子どもたちと遠藤スタッフ
(中央/ケニアのイラマタクAP)

開発
援助



利用者からの意見を集めた記録を事業スタッフ、
病院の担当スタッフと確認する木戸スタッフ
(左から2人目/エチオピア)

緊急
人道支援



ライノ難民居住地で支援により完成した校舎
(ウガンダ)

緊急
人道支援



ジャパン・プラットフォームとの連携事業で
給付金を受け取った受益者へのヒアリング
の様子(ケニア)

緊急
人道支援



スーダンから逃れてきた難民の女性の話
に耳を傾けるワールド・ビジョンスタッフ
(南スーダン)

東欧・中東

緊急
人道支援



特別支援教室に参加する子どもたちと
池之谷スタッフ(ヨルダン)

緊急
人道支援



事業の説明をする渡邊スタッフ(シリア)

アジア

開発
援助



読書キャンプに参加した子どもたちと
李スタッフ(中央/カンボジアのトム・ブオAP)

開発
援助



就学前教育センターに通う子どもたちと
松岡スタッフ
(左端/バングラデシュのビルゴンジAP)

開発
援助



外務省 日本NGO連携無償資金協力による
支援事業地の子どもたちと平井スタッフ
(中央/ネパール)

開発
援助



愛のチャリティコンサートによる支援で
完成した新校舎と子どもたち(スリランカ)

中南米

緊急
人道支援



ギャングが支配する地域の小学校に通う
子どもたちと神田スタッフ(中央/ホンジュラス)

国内

緊急
人道支援



支援により運営する無料塾に参加する
子どもたち

WVJが事業を実施している国

アフリカ

コンゴ民主共和国
エスワティニ(スワジランド)
エチオピア
モザンビーク
南スーダン
タンザニア

ガーナ
マリ
ソマリア
ケニア
ルワンダ
スーダン
ウガンダ

東欧・中東

アフガニスタン
イラク
レバノン
ルーマニア
ウクライナ

ジョージア
ヨルダン
モルドバ
シリア
トルコ

アジア

バングラデシュ
インド
ミャンマー
フィリピン
ベトナム

中南米

カンボジア
ラオス
ネパール
スリランカ
日本

エクアドル
エルサルバドル
グアテマラ
ホンジュラス

緊急
人道支援



ロヒンギヤ難民キャンプで、性暴力を予防する
研修に参加する女性たちと千葉[左から3人目]・
西島スタッフ[右から2人目](バングラデシュ)

※AP(Area Program)とは、チャイルド・スポンサーシップによる地域開発プログラムを意味しています。詳しくはP7-12参照。

開発
援助

地域とともに歩みながら、子どもの健やかな成長を実現していくプログラム

チャイルド・スポンサーシップによる支援は、一人の子どもだけを対象にしたお金や物を提供する支援ではありません。そこに住む子どもたちが健やかに成長できる持続可能な環境を整えていけるよう、支援地域の人々とともに水衛生、保健・栄養、教育、生計向上、子どもの保護等の地域の課題に取り組みます。活動の成果を地域の人々自身が将来にわたって維持し、さらに発展できるように、人材や住民組織の育成にも力を入れています。

保健・栄養

健康と成長を守ります

地域で保健サービスを提供できる人材を育成し、子どもの病気予防や栄養状態の改善、妊産婦のケア等の啓発・トレーニングを行います。また、保健施設や備品の整備等も行います。



子どもたちの栄養不良の状態を改善するため、毎月、5歳未満児の成長モニタリングと治療を行っています(ミャンマーのカンティタンAP)

生計向上

家族の収入を増やします

子どもたちの家族がより安定して収入を得られるように、畜産・農業支援、職業訓練、貯蓄・融資組合の活動支援等、地域の特性をいかした活動を行います。



住民による貯蓄グループを形成するため、トレーナーを養成。グループが立ち上がり、少額の貯蓄を始めています(ルワンダのニャガタレAP)



※AP=Area Program(チャイルド・スポンサーシップによる地域開発プログラム)

教育

学ぶ環境を整えます

地域のリーダーや保護者を対象とした啓発活動を実施。教育の重要性を伝え、子どもたちが教育を受けられるよう働きかけます。また、教育施設・備品の整備や、教師へのトレーニングを行います。



床に座って授業を受けていた子どもたちが、支援のおかげで、新しい机で学べるようになりました(タンザニアのルテンデAP)

水衛生

安全な水が飲めるようになります

安全な水の確保は、子どもたちの病気を防ぐために欠かせません。井戸や貯水タンクを設置するほか、トイレの整備を行います。



家の近くに井戸ができ、長時間労働だった水汲みから解放されて学校に通えるようになったワークネツシュちゃん(エチオピアのデラAP)

子どもの保護

子どもの健やかな成長を支えます

子どもを虐待や労働・搾取等の暴力から保護し、すべての子どもの権利が守られ個性が尊重されるよう、地域のリーダーや保護者、子どもたちを対象にした啓発・トレーニング等を行います。



子どもクラブにて。子どもたちが子どもの権利や、危険なことから身を守る方法を学び、自分に自信を持てるようになる場です(ベトナムのトアンザオAP)

チャイルド・スポンサーシップのプロセス

チャイルド・スポンサーシップの支援期間は、約15年。地域の人々が、支援終了後も子どもたちを健康に育て、学校に通わせ、自分たちで問題を解決できるようになることを目指しています。

準備

地域の人々や行政関係者との関係構築、支援ニーズの調査、事業計画策定を行います。

開始 ▶▶▶▶

それぞれの支援地域のニーズに合わせて子どもの保護等の活動を行います。事から進めます。

実施中の地域開発プログラム(AP)

キルヤンガ、ロバランギット・カレンガ(ウガンダ)、テラ、ゴンチャ(エチオピア)、イララマタク、キアムボゴコ(ケニア)、サンブワ、ルアラバ(コンゴ民主共和国)、ゲゲ、シェウラ(エスワティニ(スワジランド))、ゴロワ、ムキンガ、ルテンデ(タンザニア)、キラムルジ、グウィザ、ニャガタレ(ルワンダ)

活動が進みます

水衛生、保健・栄養、教育、生計向上、業計画に基づき、評価や見直しをしながら進めます。

カンドウクル、キラユ、サイダベット、テオガル、ブドゥコックタイ、シュラバステイ、サーガル(インド)、トモ・ブオ、ボレイ・チュルサル(カンボジア)、リディマリヤッタ(スリランカ)、西ドティ、バジャン(ネパール)、イスラムプール、ビルゴンジ、ピロル、フルバリア(ハングランド)、サマル、レイテ(フィリピン)、ダバック、トアンザオ、ムオンチャ(ベトナム)、カンティタン、タバウン(ミャンマー)
*現地事情により23年度で終了

卒業準備

これまでに育成した人材・住民組織が、いよいよ自分たちで活動を継続できるよう準備します。

コルタ、ファンガラ(エクアドル)、サンアグスティン、ティエラ・ヌエバ(エルサルバドル)、チセク、サンタ・マリア・カアボン(グアテマラ)

卒業

すべての子どもたちが「豊かないのち」を生きられるよう、地域の人々によって活動が継続されます。

2023年度に卒業した地域開発プログラム(AP)

ゴンドール・ズリア(エチオピア)、カンボ、トヨタ(コンゴ民主共和国)、ムゲラ(タンザニア)

開発
援助

チャイルド・スポンサーシップ

2023年度は4つの地域開発プログラムが卒業(支援終了)を迎えました。そのうちの2つの地域での成果を、ご紹介します。

支援卒業報告

ゴンダール・ズリア地域開発プログラム(エチオピア) 支援期間 2006年～2023年



支援の背景

食料不足、感染症一危険された子どもたちの健康状態
ゴンダール・ズリア支援地域は、深刻な食料不足に加え、安全な水源が乏しく、トイレの普及も進んでいないことから感染症が頻発。児童労働、児童婚、女性器切除など、子どもに悪影響を与える伝統的な慣習が根深く残ることも課題でした。



子どもたちは多くの仕事を担っていました



支援地域の住居

実施した支援の概要と成果



教育

新しい校舎と机で学ぶ子どもたち

以前は学校の設備が不十分で、子どもたちが集中して学習に取り組める環境ではありませんでした。学校を中退する者も多かったです。この課題を改善するため、学習機の提供、トイレや手洗い場の設置を含む校舎の整備を行い、学習環境を改善。さらに読書キャンプの実施や保護者への研修などを通じて、学びをサポートする体制を強化しました。こうした活動により、子どもの読解力、進級率の向上が見られます。

読解力のある小学6年生の割合



水衛生

自宅の近くで安全な水を得ています

飲用に適した安全な水を得られる場所やトイレがなかったため、多くの住民が汚染された水を飲んでおり、特に小さな子どもたちは下痢などの症状に苦しんでいました。ワールド・ビジョンは水供給設備や、トイレ、手洗い場の設置を進める一方、水設備を適切に維持管理する体制を整え、地域全体の衛生環境を改善しました。これらの活動を通じ、地域住民の衛生行動にも改善が見られています。

トイレを利用することができる世帯の割合



支援を受けた住民の声

支援を受けて、ニンニクの栽培を始めました。農業の研修にも参加した結果、生産量は年を追うごとに増加しています。子どもたちも今ではご飯をお腹いっぱい食べて、元気に学校に通っています。家族の健康状態も良好で、とても幸せに暮らしています。 **ゲブリーさん**



支援卒業報告

カンボブ地域開発プログラム(コンゴ民主共和国) 支援期間 2007年～2023年



支援の背景

鉱山会社の破綻後、住民の多くが貧困状態に
かつてカンボブ地域は鉱山の町でしたが、会社が経営破たん。失業者は農業で生計を立てようとしたが、知識・技術がなく、十分な収入を得ることができません。また、学校に衛生的なトイレがないなど、教育分野の課題も山積していました。



支援地域の一般的な家屋



机も椅子もない教室で勉強していました

実施した支援の概要と成果



教育

机や椅子が整備された学習の環境

カンボブ地域では、子どもの人数に比べて学校が少なく、教育に対して保護者の意識が低いことが問題でした。多くの子どもは学校に行かずに単純労働に従事していました。支援では、学校や教室の建設をはじめ、校内のトイレや井戸を整備するとともに、保護者に学校教育の重要性を理解してもらえるよう働きかけました。このような取り組みの結果、1万1000人以上が就学。小学校の就学率が向上しました。

小学校の就学率



生計向上

農業研修を受け、オクラを収穫

農民のほとんどが土地を持たず、収穫量も少なかったことから、多くの世帯が貧困のサイクルから抜け出せずにいました。そのため農業の生産性を高める技術研修に加え、農産物の販売から得た所得を少しずつ貯蓄し、将来に必要な支出や突発的な出来事に備えられるよう貯蓄グループの形成を支援。さらに家畜の飼育を促進した結果、半数以上の世帯が農業のほか、別の生計手段を手に入れることができました。

貯蓄グループの数



支援を受けたチャイルドの声

「きちんと椅子に座って授業を受けられるようになり、私は読み書きや計算の成績が上がりました」と語るルースさん(23歳)は幼い頃からの夢をかなえ、教師として子どもたちに勉強を教えています。「すべてのチャイルド・スポンサーの皆さまに、心からお礼を伝えたいです」



開発
援助

チャイルド・スポンサーシップ 51の地域

バングラデシュからの報告

イスランプール地域開発プログラム

支援期間 2020年～2031年



支援の背景 頻発する洪水、住民の仕事や生活に深刻な影響も

ブラマボトラ川やジャムナ川の流域にあるイスランプール地域は、雨期には道路や農地が4～6カ月間も水没します。頻発する洪水は住民生活に悪影響を与え、不安定な経済状況が早婚や児童労働、家庭内暴力の原因になっています。

洪水で子どもたちは学校に通うことができません ▶



2023年度の主な成果

生計向上

極度の貧困状態にある360世帯を対象に、家庭菜園や家畜の飼育、栄養価の高い食品の調理方法などの研修を行いました。収入を向上できたことで人々は貧困から抜け出し、将来に希望を持つことができています。

「家畜の飼育方法を学び、収入の一部を貯蓄できるようになりました」二児の母スルジョさん



子どもの保護

児童婚の廃止を目指し、子どもの保護や権利に関する研修を実施しました。研修には子どもたちも参加して、問題を共有し、話し合います。継続的な活動の結果、2023年度には3つの村が児童婚ゼロを宣言しました。

子どもの権利を学ぶフォーラムに参加したスマヤさん(16歳)



ケニアからの報告

キアムボゴコ地域開発プログラム

支援期間 2007年～2027年



支援の背景 子どもの権利を侵害する慣習が根強く残る地域

16民族が暮らすキアムボゴコ地域。安全な水の確保が困難なことに加え、地域では子どもを大切に育てるという考え方が根付いておらず、法律で定められた年齢以前の早婚(主に女子)や女性器切除といった慣習が根強く残っています。

支援地域の一般的な住居 ▶



2023年度の主な成果

保健・水衛生

給水パイプが8つの学校まで延長、接続され、3,015人の児童・生徒が校内で水を利用できるようになりました。安全な水を飲めるようになったほか、校内の衛生状況も改善され、出席率も向上しています。

毎朝数キロ歩いて水くみをする必要がなくなりました



子どもの保護

保護者と子どもを対象に、子どもの保護に関する啓発活動を実施。結果、子どもへの虐待、ネグレクト、暴力等を発見したら、どこに対応してもらえばいいか(行政サービスの存在と機能)を理解した青少年の割合は20%から70%に増加しました。

研修で体罰や暴力によらない肯定的なしつけを学んだ家族



開発プログラムを世界中で継続しました。そのうち3つの地域での成果をご紹介します。

エルサルバドルからの報告

サンアグスティン地域開発プログラム

支援期間 2008年～2027年



支援の背景 ギャング、暴力、薬物—子どもの未来をむしばむ課題が山積

エルサルバドルでは200万人を超える人々(主に男性)が海外に出稼ぎに出ており、サンアグスティン地域でも母子家庭が多く見られます。周りに規範となる大人がいないため、ギャングになったり、薬物に依存する若者は後を絶ちません。基本的な衛生知識がなく、病気になる子どもも多くいます。 支援地域の子どもたち ▶



2023年度の主な成果

水衛生

125世帯に水衛生に関する研修を行い、研修を受けた世帯には浄水フィルターを提供しました。安全な水が利用できるようになったことで、下痢などの病気になることが減少し、人々の健康状態が改善されました。

手洗い方法を教え、バケツや浄水フィルターを支援



子どもの保護

地域住民、地域リーダーや宗教リーダーに対して、子どもの権利に関する研修を実施し、その重要性についての意識を高めました。コミュニティ全体の積極的な参加を通じて、子どもへの暴力のない安全な環境づくりを行っています。

子どもの権利を学ぶイベントで楽しむ子どもたち



— 選ぶ力を子どもたちに。選ばれる喜びをあなたに。 —

Chosen [チョーズン]

スタッフの「チャイルドがスポンサーを選べたら…」とのアイデアから、2019年に始まったChosen[チョーズン]。選択する自由を奪われている子どもに、自分で支援者を写真から選んでもらう、チャイルド・スポンサーシップのもうひとつの支援の始め方です。厳しい生活のために選ぶ自由がない子どもたちにとって、自分で決断することの意義は大きく、未来に向かって成長する力となります。

4月22日のアースデーに、親善大使 酒井美紀さんを迎えて開催した子どもの未来と一緒に考えるイベントでは、このChosen[チョーズン]について紹介。実際にチャイルドに選ばれてChosen[チョーズン]に参加している酒井さんが、体験談を語りました。イベント会場では、プロのカメラマンがChosen[チョーズン]の参加者を撮影。その写真は「スポンサーを選ぶのを待つ子どもたち」へ送られました。



親善大使の酒井美紀さん(左)とTV番組の構成作家としてチャイルド・スポンサーシップの支援現場取材したことがある林恭子さん(右)



酒井さんを選んだカンボジアのチャイルド

緊急 子どもの保護

事業実施国 ミャンマー、バングラデシュ、ネパール、エチオピア、南スーダン、スーダン、ウガンダ、コンゴ民主共和国、アフガニスタン、シリア

連携機関 外務省 日本NGO連携無償資金協力 / 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(JPF) / 国連児童基金(UNICEF) / 国連人道問題調整事務所(UNOCHA) / 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) / 国連教育科学文化機関(UNESCO) / 国連人口基金(UNFPA) / 教育のためのグローバル・パートナーシップ(GPE)

皆さまからの募金額

- 児童保護募金 4,755,178円
- 危機にある子どもたちのための募金 ... 46,716,326円
- 誕生日記念募金 21,607,212円
- コミュニティ・サポーター 76,773,000円
※水・食糧分含む
- プロジェクト・サポーター 82,914,500円
※水・食糧、難民支援分含む
- ミャンマー難民危機緊急支援募金 700,500円

ウガンダからの報告

ライノ難民居住地における初等教育環境改善事業



支援の背景

子どもたちに迫る早婚や妊娠の危機

ライノ難民居住地は、教室などの施設不足が深刻で、劣悪な学習環境が子どもの出席率にも大きく影響していました。欠席している間に搾取や暴力に巻き込まれ、特に女の子の早婚と妊娠は深刻な課題です。紛争のため保護者のいない子どもも多くいます。



教室が足りず屋外での授業に

2023年度の主な成果



支援している小学校の子どもたちと古徳スタッフ



教員研修で作成された教材

建設したインクルーシブなトイレ

校舎建設により学習環境を整備し、子どもたちを守る大人の力を育成

安全に安心して過ごせる学校環境整備のため、3校の校舎、1校にはトイレを建設しました。また、地域と学校が連携し、啓発活動や家庭訪問を実施するなど、子どもへの暴力予防と、学校に通っていない子どもの就学・復学を支援しています。学外では、コミュニティ・ボランティアを中心に、一方学内では、子どもたちによって選ばれた教員たちが、支援が必要な子どもに寄り添い、適切な支援機関と連携できるようになるなど、子どもを守る環境が整いつつあります。

支援地域からの声

アラビア語ができるので、学校では難民の子どもやお母さんの話し相手になっています。研修のおかげで、最近では話の中からネグレクトのケースを発見し、支援機関に繋ぐことができました。子どもたちから相談窓口に使われたので、今後も責任をもって彼らを守ります。

ヨロ小学校のアラフィ先生(写真右の男性)



数値で見る成果

より安全な環境で
学習できるようになった子ども
10,938人

子どもの保護とサポート方法について
研修を受けた教員
47人

子どもの保護について研修を受けた
コミュニティ・ボランティア
90人

カウンセリング支援を受けた教員
120人

緊急 人道支援 難民・国内避難民支援

事業実施国 バングラデシュ、フィリピン、南スーダン、スーダン、ウガンダ、コンゴ民主共和国、マリ、ホンジュラス、アフガニスタン、イラク、レバノン、トルコ、シリア、ヨルダン、ウクライナ、ルーマニア、モルドバ、ジョージア

連携機関 外務省 日本NGO連携無償資金協力 / 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(JPF) / 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) / 国連人道問題調整事務所(UNOCHA) / 教育を後回しにはできない(Education Cannot Wait)基金(ECW)

皆さまからの募金額

- 夏期募金 23,100円
- 難民支援募金 81,583,769円
- プロジェクト・サポーター 82,914,500円
※水・食糧、子ども保護分含む
- プロジェクト・サポーター(難民支援) ... 28,320,500円
- シリア緊急支援募金 825,500円
- ウクライナ危機緊急支援募金 25,496,273円
- トルコ・シリア大地震緊急援助募金 ... 101,731,864円

ウクライナからの報告

ウクライナ危機対応



支援の背景

日常を失った947万人が避難生活

2022年2月以降のウクライナ危機により、1,760万人が援助を必要としています。家を失った947万人のうち367万人は国内で、580万人が欧州内で避難生活を送っています。ワールド・ビジョンは、ウクライナ、ルーマニア、モルドバ、ジョージアにおいて、支援を継続しています。



紛争を逃れ避難してきた子どもとワールド・ビジョンのスタッフ

2023年度の主な成果



子どもの保護活動



モルドバでの現金給付による支援

モルドバでのサマーキャンプ

変化する難民のニーズに柔軟に対応しています

ウクライナ国内およびルーマニア、モルドバ、ジョージアにおいて、食料や現金給付・現金バウチャー、衛生用品の提供、一時的なシェルターの支援を行いました。また、子どもとその家族が保護される環境を整えるため、チャイルド・フレンドリー・スペースの開設など「子どもの保護」プログラムを実施し、教育支援や精神保健・心理社会的支援とそのため研修を提供。さらに、生計支援サービスも提供しました。このような活動を通して、連携する提携団体と相互能力の強化に努めました。

支援地域からの声

「幼稚園に行けなくなってしまったので、このチャイルド・フレンドリー・スペースには休まず連れて来るようにしています。娘はここが大好きなんです」。安心して遊び、絵を描いたりしながら、親子は笑顔を取り戻しています。

ユリアさんとマルガリータちゃん(5歳)



数値で見る成果

食料を届けた人
512,804人

「子どもの保護」プログラムを通じて
支援した子ども
76,788人

教育支援を受けた子ども
250,656人

現金・バウチャー給付を受けた人
321,038人

開発 緊急 水・食糧支援

事業実施国 ミャンマー、ベトナム、バングラデシュ、スリランカ、エチオピア、ケニア、ソマリア、南スーダン、スーダン、タンザニア、ウガンダ、コンゴ民主共和国、ガーナ、アフガニスタン、イラク、レバノン

連携機関 外務省 日本NGO連携無償資金協力／特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(JPF)／国連児童基金(UNICEF)／世界銀行(WB)／国連世界食糧計画(WFP)

スーダンからの報告

南コルドファン州食糧支援事業



支援の背景

さまざまな飢餓要因が人々を襲う

紛争や気候変動に直面しているスーダンの中でも、特に南コルドファン州では、武力衝突の影響を受けて住民は耕作地や家畜を失い、極めて悪い栄養状態にあります。現地通貨の切り下げや高いインフレも食料安全保障の悪化に拍車をかけています。



食糧不足が深刻化し、より多くの人が支援を必要とすることが予想されている

2023年度の主な成果



石臼づくり研修に参加する女性たち

改良かまど研修の様子

食料配布前の説明

数値で見る成果

食糧支援を受けた人
6,038人

配布した食料
552トン

現金給付による支援の総額
86,484米ドル

食糧支援は、危機に瀕した国内避難民の命綱

南コルドファン州の国内避難民や難民を対象に、食料配布、5歳未満児と妊婦や授乳中の母親への栄養補助食の配布、栄養、衛生知識、感染予防に関する啓発活動を行いました。また、最も弱い世帯には現金給付と、コミュニティ・インフラの建設・修復や生計回復活動への参加を条件に食糧支援(フード・フォー・アセット)を実施。具体的には、職業トレーニング、作物栽培研修、家畜飼養、女性センターの建設、井戸の修理など。参加した世帯には、ソルガムとレンズ豆を提供しました。

支援地域からの声

紛争から避難した直後に食料支援プログラムに参加し、ソルガム、落花生、ゴマ、ササゲなど、換金作物を含む多くの収穫を得ることができました。「いつか自立して、家族を養いたい」。支援は、安定した生活を取り戻そうと奮闘するマンゾルさんの希望となっています。

マンゾルさん



皆さまからの募金額

- クリスマス募金 **139,497,807円**
- 水と食糧のための募金 **18,506,750円**
- ラブ・ローフ募金 **1,074,000円**
- コミュニティ・サポーター **76,773,000円**
※子ども保護分含む
- プロジェクト・サポーター **82,914,500円**
※子ども保護、難民支援分含む

ソマリアからの報告

ソマリア・プントランドにおける栄養支援事業



支援の背景

待たなしの食糧支援が必要

ソマリアでは、周期的な食料不足、疾病の蔓延、紛争の激化により、特に5歳未満児、妊娠中、授乳中の女性の栄養不良が深刻化。2023年には180万人の子どもが急性栄養不良に直面し、そのうち51万人以上は重度の栄養不良です。継続的かつ広範囲にわたる栄養支援が緊急に求められています。



干ばつと飢饉を乗り越えるため、支援を求めて移住する人々

2023年度の主な成果



栄養状況の検診を受ける母親

栄養相談

保健・栄養の啓発活動

数値で見る成果

配布した食糧
84トン

栄養補助支援を受けた5歳未満の子ども
1,535人

栄養不良予防のための食糧支援を受けた妊娠・授乳中の母親
665人

栄養不良と戦う子どもたちと母親をサポート

国連世界食糧計画(WFP)と連携し、ソマリア・プントランドのヌガール州で栄養不良の5歳未満の子ども、妊娠中・授乳中の母親に食糧支援を行いました。同州の保健省や結核センターのスタッフ、村の保健委員会の委員、コミュニティ栄養ワーカーと協働で実施し、具体的には、母親をサポートするために栄養不良を防ぐ知識を学び、適切なケアを実践できるよう、個別にカウンセリングを行いました。同時に、食糧支援を通じて、妊娠中の母親が安全な出産に備えられるよう配慮しました。

支援地域からの声

食欲がなかったハムディちゃん(2歳)は、3か月間、栄養補助食の支援を受けました。母親のハウォさんは、「栄養プログラムのおかげで、ハムディの状況は改善しました」と感謝しています。

ハムディちゃん



支援前
腕の細さが危険な状態を示す

支援後
栄養状態が改善

国内での事業

国内支援は、2023年度から「国内子ども支援事業」として取り組みを拡充し、日本の子どもたちの豊かな成長に貢献するための活動を展開しています。

緊急 アドボカシー 国内子ども支援事業

中野区子ども支援事業

子どもたちの居場所づくりを推進

ワールド・ビジョン・ジャパンの事務所がある東京都中野区では、子どもの居場所不足が課題のひとつです。そのため区内の学習支援団体と共催し、子どもの居場所「なかのマイスペース」を設置しました。春休み(2023年3月~4月)に計6回開催し延べ48人、夏休み(2023年7月~8月)には計12回で延べ101人の子どもが参加しました。この経験を踏まえ、ワールド・ビジョン・ジャパン単独開催の居場所「みんなのへや」も夏休みに試み、計8回延べ22人の子どもが参加しました。地域の町会等のご助力も賜り、9月以降も放課後の居場所としておよそ週1回の頻度で定期開催しています。



夏休み「みんなのへや」のポスター



「みんなのへや」で遊ぶ子どもたち

入学お祝い金事業

中学・高校への入学者100人にお祝い金

「国内子ども支援事業」の新たな取り組みとして、株式会社チュチュアンナ様のご支援により「入学お祝い金事業」を実施しました。当初の予定(65人)を上回る応募があったため、ワールド・ビジョン・ジャパン「国内子ども支援事業」の資金と合わせ、中学・高校に入学した子ども100人にお祝い金をお渡ししました。



入学お祝い金の贈呈式の様子



お祝いメッセージを読む参加者の親子

スタッフの声

2023年度からは「国内子ども支援事業」として活動の幅も大きく広がり、上述の2事業のほか、2022年度から継続している助成金事業や、ワールド・ビジョン・ジャパンが実行委員団体を務める「広げよう!子どもの権利条約キャンペーン」を通じた政策提言・啓発活動等にも精力的に取り組んでいます。

活動を通じて多くの子どもや保護者の方からお話を伺うなかで、子どもの権利の実現には、今すぐ支援を届けること、社会の変革を促し根本的な解決を目指すこと、そのために仲間を増やすこと、そのいずれもが重要だという思いを深めています。

日本の子どもたちの豊かな成長を支え、子どもの権利を実現するため、来年度もさらなる活動を展開してまいります。皆さまのご理解とご協力をいただけましたら幸いです。



高橋布美子スタッフと山下愛子スタッフ

アドボカシー

子どもを取り巻く問題の根本解決を目指し、不公正な社会を変えていくため、政府や市民社会に訴えます。

アドボカシー

G7広島サミット

事務局長の木内が市民社会の代表を務めました

2023年5月、G7首脳会合(サミット)が広島で開催されました。ワールド・ビジョン・ジャパン事務局長の木内真理子は、エンゲージメント・グループ*のひとつC7(Civil7/市民7)の日本側実行団体である「G7市民社会コアリション2023」の共同代表、また、世界75カ国700名以上が参加するC7の運営委員を務めました。C7は、弱い立場におかれた子どもたちや人々の声を増幅し、世界の多様な視点を届ける「G7の良心的役割を担う存在」として、サミットに至るプロセスと首脳会合会期中、政策対話への参加、記者会見や取材対応等の発信を精力的に行いました。

*G7首脳会合(サミット)では、議論される各分野について、各国政府から独立したステークホルダー(市民、ビジネス、女性など)によりネットワークグループが形成され、政府との対話や政策提言を行い、G7公式文書への反映を働きかけるプロセスが設置されています。このグループのことを「エンゲージメント・グループ」と呼びます。

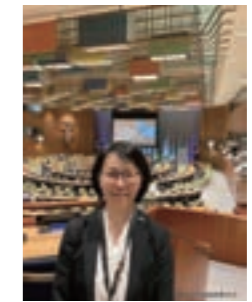


Photo by ソー写真グッド / 宿野部隆之

首相官邸にて岸田首相(中央)に「C7政策提言書」を手交するWVJ事務局長の木内(左から5人目)

国連SDGサミットへの参加

2023年9月、第79回国連総会に合わせて、4年に1度の「SDGサミット」が開催されました。2023年は2030年に達成期限を迎えるSDGsの中間地点ですが、SDGsの進捗は著しく遅れており、予定通り進捗しているターゲットはわずか15%です。この危機的状況の中、ニューヨークの国連本部には各国の首脳、国際機関、民間セクター、市民社会の代表などが集い、SDGsの進捗を加速させる方策について議論しました。サミットでは「政治宣言」が採択され、SDGs達成に向けた行動の変革を宣言。SDGサミットに参加した柴田哲子スタッフは、SDGs市民社会ネットワークによる緊急報告会にも参加し、現地から最新の状況を伝えました。



SDGサミット会場と柴田スタッフ



国連ビル内の様子

緊急時および長期化する危機下の教育(EiEPC)

ワールド・ビジョン・ジャパンは、2019年頃より「緊急時および長期化する危機下の教育(Education in Emergencies and Protracted Crises: EiEPC)」に関するアドボカシーを続けています。世界で頻発し長期化する紛争や災害等の状況下において、子どもたちの希望となる教育が切れ目なく行われることを求め、日本政府に働きかけています。3月には「教育を後回しにはできない基金(Education Cannot Wait Fund: ECW)」と「教育のためのグローバルパートナーシップ(Global Partnership for Education: GPE)」よりそれぞれのトップを招き、日本の国会議員と議論する勉強会を「教育協力NGOネットワーク(JNNE)」の共催により開催しました。JNNEで副代表を務める柴田スタッフが全体司会を務めました。



議員勉強会の様子

企業・団体との連携

企業との連携

1,761社から、総額485,435,949円のご支援をお寄せいただきました。

企業の皆さまから、チャイルド・スポンサーシップ、特別プロジェクト、商品・サービスの売り上げからの寄付、社員募金と企業のマッチング募金、ボランティアへの協力等、様々な支援・協力をいただきました。

2023年度支援実例紹介(一部)

特別プロジェクトによる支援



塩野義製薬株式会社

ご法人とSHIONOGIグループ社員からのご寄付をもとにケニアの母子保健改善に向けた取り組み「Mother to Mother SHIONOGI Project」を支援いただいています。プロジェクト開始から9年となる2023年度は、キリフィ県(第2期事業)とナクル県(第3期事業)を実施しました。



株式会社JYPエンターテインメント・ジャパン

JYPエンターテインメントが展開する社会貢献プログラムEDM(Every Dream Matters!)の一環として、アジア4カ国での「最も弱い立場にある子どもたちのための医療費支援プロジェクト」を支援いただきました。



森永乳業株式会社

ベトナムの子どもたちの健康を応援する「Smiles & Health for Children」を通して、同国ティエンビエン省において、子どもたちの健康・栄養状態事業を支援いただきました。また、同省でのチャイルド・スポンサーシップも支援いただいています。

チャイルド・スポンサーシップ等を通して



山崎製パン株式会社

チャイルド・スポンサーシップを通して、ルワンダとバングラデシュのチャイルドを支援いただいています。また2023年度は、ヤマザキ「ラブ・ローフ募金」により、バングラデシュでの子どもの栄養改善事業を実施しました。



太陽工業株式会社

2023年2月に発生したトルコ・シリア大地震の緊急・復興援助のため、エアテント(マク・クイックシェルター)10張りの寄贈と活動費を支援いただきました。



株式会社ZOZO

2023年2月に発生した「トルコ・シリア大地震緊急援助募金」へのご協力をいただきました。



クラウドバンク・グループ

アジア5カ国100人のチャイルド・スポンサーとして、また2023年度は、「トルコ・シリア大地震緊急援助募金」にもご協力をいただきました。



株式会社チュチュアンナ

長年にわたり、チャイルド・スポンサーシップを通して途上国の子どもたち、また特別プロジェクトを通して国内の子どもたち、それぞれの成長を支えていただいています。



三菱自動車工業株式会社

12人のチャイルド・スポンサーとして、また、アジアでの特別プロジェクトを通して支援いただいています。

商品・サービスの売り上げからの寄付



ジースプレッド株式会社 若尾製菓株式会社

チャイルド・スポンサーシップを通じた支援に加え、「Happy Gift」「やさしさセット」「しあわせのカルテット クランチ」「パニラージュ」等の売上からのご寄付により、アジア・アフリカでの学校建設を支援いただいています。2023年度は、6校目となるフィリピンでの支援に参加いただきました。



支援・協力をいただいた企業(一部)



株式会社タイセイ



玉の肌石鹸株式会社



株式会社山田養蜂場



ハニカム・テクノロジー株式会社



ファルマ・ソリューションズ株式会社



株式会社レントラックス



プレコグループ



LINEヤフー株式会社



株式会社 FDJ



有限会社香取運輸



株式会社リアルト・ハーツ



株式会社ウチヤマホールディングス



株式会社シンシア



株式会社プチファーマシスト



株式会社アフリシエイト



日清製粉株式会社



オリエンタル酵母工業株式会社



株式会社不二家



月島食品工業株式会社



パナソニックホールディングス株式会社



ヤマハ発動機株式会社

宮園輸入車販売株式会社
株式会社シブヤ
普新貿易株式会社
ミヨシ石鹸株式会社
医療法人真芳会
三菱自動車STEP募金
有限会社赤鬼

ジェイビーシー株式会社
株式会社秋山住研
株式会社フジ・リテイリング
芥川製菓株式会社
キャリアインキュベーション株式会社
加茂水道工業株式会社
株式会社マスパックプロダクツ

公益財団法人船井幸雄記念館
浜松産業株式会社
富士株式会社
功成建設株式会社
株式会社シーブランド
株式会社ブルマーレ
山下湘南夢クリニック

各種団体との連携(一部)

1,316団体から、総額115,384,319円の支援が寄せられました。

公益財団法人毎日新聞東京社会事業団
気仙沼漁業協同組合
学校法人捜真学院捜真小学校
梅光学院大学 梅光学院中学校・高等学校
学校法人立教女学院 立教女学院中学校
青山学院 宗教センター

学校法人愛恵学園愛恵幼稚園
学校法人ベタニヤ学園日進ベタニヤ幼稚園
日本イエス・キリスト教団 荻窪栄光教会
日本福音キリスト教会連合 グレースコミュニティ
日本キリスト教団 渋谷教会
大和カルバリーチャペル

東京フリー・メソジスト教団 小金井教会
東京ユニオンチャーチ
ウェスレアン・ホーリネス教団 淀橋教会
シオン・キリスト教団 蒲田教会
日本福音キリスト教会連合 前橋キリスト教会
日本ホーリネス教団 坂戸キリスト教会

広がる支援の輪

ワールド・ビジョン・ジャパンは、個人や企業・団体、様々なパートナーの想いを大切に受け止めながら、現地の子どもたちが必要とする支援活動につなげています。

遺贈・相続財産による支援

「人生の証」を未来につなげます

「遺贈」は、遺言によって遺産の一部またはすべてを特定の個人や団体に無償で譲与することです。また、故人のご遺志を受け継いだ相続人が、相続財産から寄付することもできます。2023年度は、22件の遺贈寄付をいただきました。お一人おひとりの「人生の証」であるご寄付をしっかりと受け止め、ご遺志を実現できるよう、大切に使用させていただきます。

遺贈寄付についての ご相談・お問い合わせは

電話 03-5334-5355
(平日 10:00~17:00)

メール donation@worldvision.or.jp

詳しいパンフレット(無料)もご用意しています。お気軽にご相談ください。>>>>



タイアップ企画を通じた支援



Kakecco(かけっこ) 欠けた米菓でフードロス削減

「100℃の思いやりで、笑顔を膨らます。」をミッションに掲げるおかし専門店の株式会社中央軒煎餅。2020年から、製造工程で欠けたあられやお煎餅を使用した商品「Kakecco(かけっこ)」の売上の一部を、「水と食糧のための募金」に寄付いただいています。美味しいお煎餅を食べながら、気軽に社会貢献できる一品です。

◀ フードロス削減をめざして生まれたサステナブルな商品「Kakecco」

『キャプテン翼』ボールはともだちプロジェクト

世界の子どもたちに1,000個の サッカーボールをプレゼント

double jump.tokyo株式会社さまが主導するNFTによる社会貢献を目指す新プロジェクトに協力し、世界10カ国の子どもたちにサッカーボールを届けました。『キャプテン翼』の作者高橋陽一先生が描き下ろしたイラスト入りのボールに子どもたちは大喜び。「サッカーの力で、世界平和を。」という『キャプテン翼』のワンシーンに端を発したこのプロジェクト。アンバサダーの香川真司選手からは「ボールを蹴ることが、子どもたちの喜びや希望、力になってほしい」とコメントが寄せられました。



サッカーボールを受け取り、喜ぶ子どもたち

皆さまとともに

イベントやボランティア等、多くの方にワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)の活動に参加いただいています。

グローバル教育

世界に目を向ける啓発に10,595名の子ども・若者が参加



「ロヒンギャ難民支援」をテーマとした講演会にご参加くださった文教大学国際学部の皆さん

世界の現状を知り・考え・行動する機会となるよう、未就学児から大学・大学院生まで幅広い年齢層を対象とした「グローバル教育」を実施しています。サマースクールに参加した小学生の94%が、「世界のために自分にできることがあると思う」と回答。保護者からは「同時代に生きる世界の子どもたちの現状を知ってもらい、何ができるのかを一緒に考えたい」などの感想が寄せられました。また、高校生のオンラインインタビューが増え、国際協力への積極的な姿勢の醸成につながっています。

講師派遣	事務所訪問	サマースクール	デジタル教材
66回	25回	422組	1,513名
7,988名	161名	933名	

ユースとの取り組み

社会課題を考えるための多角的な視点を育成

青山学院大学で「グローバル課題とNGO」というテーマの講座を実施しました。貧困や紛争等の課題を幅広く取り上げつつ、支援事業や資金調達等の課題まで、国際協力の最前線にいるWVJの現役実務者12名がリレー方式で講義を担当。「15回の授業を通して、メディアで取り上げられる社会課題を多角的に考えられるようになった」と感想が寄せられ、今日、社会の変革のために不可欠とも言える若者の力の育成に貢献しました。



講座には青山学院大学の学生が多数参加

イベント

対面の交流イベントを再開しました

ZoomやYouTube、Instagramを利用したオンラインイベントの開催(合計11回)に加え、対面での交流イベント、ワールド・ビジョン・カフェを3年半ぶりに大阪・東京で再開することができました。118人にご参加いただき、ご支援者や、世界の子どもたちに関心を持つ方々の声を直接伺いました。また、オンラインイベントでは、支援活動とスタッフの想いをお伝えし、皆さまのご支援で実施される活動が、支援地域の子どもたちに大きなインパクトをもたらしていることをご紹介します。

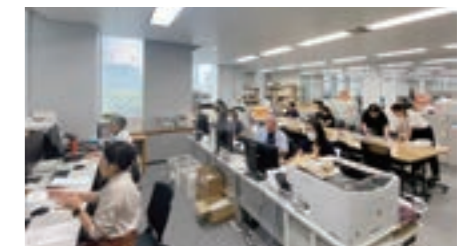


ワールド・ビジョン・カフェにて参加者同士の交流

ボランティア

約3年半ぶりに事務所でのボランティア活動を再開

59人のボランティアに活動を支援いただきました。2020年2月以降、東京事務所でのボランティア活動を一時停止・規模縮小していましたが、2023年9月に再開。在宅では、手紙翻訳、動画・発信物の編集等のご協力をいただきました。ボランティアの皆さまの力添えにより、チャイルド・スポンサーからの手紙は約15,400通を東京事務所から各国現地事務所へ、チャイルドからの手紙は、約21,000通をチャイルド・スポンサーにお送りできました。



3年半ぶりに活気が戻ったボランティア室

トルコ・シリア大地震の緊急支援

支援が繋ぐ、この子の未来。



被災したトルコを訪問したWVJ事務局長 木内。被災者のためのキャンプに暮らすアイシャちゃん

大地震の発生から7カ月経った9月。被災の爪痕がまだ鋭く残るトルコ、シリアを訪問したワールド・ビジョン・ジャパン事務局長の木内真理子は、アイシャちゃんという女の子に出会いました。ワールド・ビジョン・ジャパンは、「この子を救う。未来を救う。」という言葉に胸に日々活動していますが、アイシャちゃんのストーリーは、その想いを新たにさせてくれるものでした。

アイシャちゃんの人生は、大地震によって、激変しました。巨大な揺れは多くの愛する人の命を奪い、居心地の良かった家を廃墟にしました。そして、アイシャちゃんと家族は、避難生活という激動の旅に出ることを余儀なくされたのです。アイシャちゃん一家は過酷な旅に耐え、ワールド・ビジョンがパートナー団体と協力して支援活動を行っているトルコ、アディマンにあるキャラバンキャンプにたどり着きました。アイシャちゃんはここで、命を繋ぐために必要な物資とともに、教育、子どもが安全に過ごせる場所、心のケアなど、様々な支援を受けました。安心できる場所で行われる学びのセッションや遊びの時間に積極的に参加するようになったアイシャちゃんは、これまで心の中で大切にしていた特別な仲間存在を話してくれました。辛く長い旅路をともに歩んできた相棒のユニコーンのぬいぐるみ。彼女は、避難生活の先を見据え、故郷に戻る夢が実現する日まで、この大事な相棒を守り抜くと力強く約束してくれました。

支援の背景 トルコ南部とシリア北西部は、2023年2月6日のマグニチュード7.8の地震、2月20日に発生したマグニチュード6.4の地震により、壊滅的な被害に見舞われました。トルコでは、5月の時点で、死者5万人。520万人(子ども250万人)が支援を必要とし、260万人が避難生活の長期化に直面していました。12年にわたる紛争が続くシリアでは、9月の時点で4,500人以上が死亡、10,400人以上が負傷と報告があり、290万人の国内避難民を含む410万人が人道支援を必要とし、370万人が食糧不足に陥っています。



地震による壊滅的な被害

支援開始から7月24日までの約半年間に、提携団体と連携して、トルコとシリアで、計949,397人に支援を届けました。

活動の成果(一例)

トルコで支援を届けた人数 **113,844人**

安全な水を提供した人数(30日分) **9,600人** 支援した共同水タンクの利用者数 **48,000人** 水と生活必需品を提供した人数 **2,500人**



貯水容器・衛生キットの配布準備

シリアで支援を届けた人数 **835,553人**

暖房器具と燃料を提供した学校に通う生徒の数 **17,344人** ワールド・ビジョンが支援する保健施設でサービスの提供を受けた人の数 **144,769人** 心理社会的ケアのための子ども用玩具キットを学校向けに **30,037人分** および家庭向けに **6,140世帯分** 配布

衛生キットを配布した人の数 **9,120人** 現金を給付した世帯数 **4,014世帯**



学用品の支援 (シリア北西部)



心理社会的支援を受ける子ども (シリア北西部)

2023年度 会計報告

正味財産増減の状況 2022年10月1日より2023年9月30日まで(単位:千円)

I. 一般正味財産増減			
経常収益			
1 受取寄付金	受取スポンサーシップ募金	3,197,580	
	受取その他募金・寄付金(1)	1,016,481	4,214,061
2 受取補助金等	政府系機関からの受取補助金等	437,080	
	(2) 民間団体からの受取助成金等	449,777	
	国連機関からの受取委託金等	2,357,843	3,244,700
3 受取会費		650	
4 基本財産運用益・特定資産運用益・雑収益		3,064	
経常収益合計(A)		7,462,475	
経常費用			
1 事業費	地域開発援助事業費	6,172,180	
	地域開発援助・委託援助事業費(※)	6,014,678	
	地域開発援助事業管理費(5)	157,502	
	人材派遣費(3)	17,391	
	啓発教育費	989,698	
	各種啓発教育費(4)	586,379	
	啓発教育事業管理費(5)	403,319	7,179,269
2 管理費(5)		111,181	
経常費用合計(B)		7,290,450	
経常外収益			
1 固定資産売却益		87	
経常外収益合計(C)		87	
当期一般正味財産増減額(A+C)-(B)		172,112	
一般正味財産期首残高		1,668,095	
一般正味財産期末残高(D)		1,840,207	
II. 指定正味財産増減			
当期指定正味財産増減額		-531	
指定正味財産期首残高		431,363	
指定正味財産期末残高(6)(E)		430,832	
III. 正味財産期末残高			
正味財産期末残高(※)(D)+(E)		2,271,039	

※地域開発援助・委託援助事業費の内訳(アドボカシー費1,267千円除く)については、P27-28の支援事業一覧をご覧ください。

※※正味財産の内訳は、資産・負債の状況のIII.正味財産の部を参照ください。

(1)~(7)については、次ページからの「会計報告の注記」を参照ください。

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパンは2023年度財務諸表等(2022年10月1日より2023年9月30日まで)について、以下の監査を受けています。

2023年11月13日 森岡伸介公認会計士事務所による監査

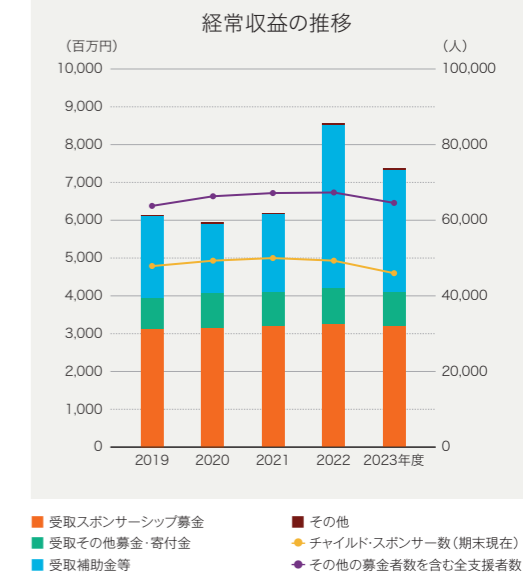
2023年11月29日 監事による監査

【数字で見るワールド・ビジョン・ジャパン(P3-4)について】

- 「資金の集め方」は、上記会計報告の「経常収益合計(A)」を100%とし、各項目には以下の科目を含みます。
 - チャイルド・スポンサーシップ募金：「受取スポンサーシップ募金」
 - その他募金・寄付金：「受取その他募金・寄付金」
 - 補助金等：「受取補助金等」
 - その他：「受取会費」「基本財産運用益・特定資産運用益・雑収益」
- 「資金の使い方」は、上記会計報告の「経常費用合計(B)」を100%とし、各項目には以下の科目を含みます。
 - 現地事業活動のため：「地域開発援助事業費」「人材派遣費」
 - 広報活動のため：「啓発教育費」
 - 団体の運営・管理のため：「管理費」

資産・負債の状況 2023年9月30日現在(単位:千円)

I. 資産の部	
1 流動資産	609,147
現金預金	584,480
前払金	20,103
立替金	3,364
仮払金	724
その他流動資産	476
2 固定資産	2,054,142
基本財産	50,000
特定資産(6)	1,918,318
補助金・助成金・委託金引当資産	425,832
地域開発援助事業引当資産	1,309,000
募金引当資産	5,000
その他特定資産	178,486
その他固定資産(7)	85,824
資産合計	2,663,289
II. 負債の部	
1 流動負債	213,764
未払金	184,367
預り金	5,554
賞与引当金	23,773
未払法人税等	70
2 固定負債	178,486
退職給付引当金	178,486
負債合計	392,250
III. 正味財産の部	
1 指定正味財産	430,832
(うち特定資産(6)への充当額)	(430,832)
2 一般正味財産	1,840,207
(うち基本財産への充当額)	(50,000)
(うち特定資産(6)への充当額)	(1,309,000)
正味財産合計	2,271,039
負債及び正味財産合計	2,663,289



ワールド・ビジョンについて

ワールド・ビジョン(WV)は、約100カ国で活動する世界最大規模の国際NGOです

ワールド・ビジョンの始まり

WVの活動は、アメリカ生まれのキリスト教宣教師ボブ・ピアスによって始められました。第二次世界大戦後、混乱をきわめた中国に渡ったボブ・ピアスは、「すべての人々に‘何か’はできなくとも、誰かに‘何か’はきっとできる」と考えるようになりました。中国で出会った一人の少女の支援を始めた彼は、より多くの支援を届けるため、1950年9月、アメリカのオレゴン州で「ワールド・ビジョン」を設立。朝鮮戦争によって両親を亡くした子どもたち、夫を亡くした女性たち、ハンセン病や結核患者に救いの手をさしのべることから始まり、現在は世界の子どもたちのために、「開発援助」「緊急人道支援」「アドボカシー」の3つを柱に、約100カ国で活動しています。



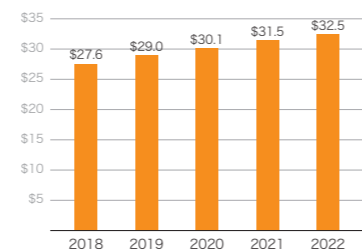
ワールド・ビジョン創設者
ボブ・ピアス

組織と運営

WVでは、各国が独自に総会・理事会を持ち、その国のWVの運営に関する責任を負っています。通常は、総会・理事会のもとに事務局が置かれ、実際の運営を行います。最終的な責任はその国の総会・理事会が持っています。

WV全体に関わる方針や事業計画、予算等については、各地域から選出された理事で構成される国際理事会で決定されます。このほか国際理事会では、新たに活動を開始する国や活動を終了する国の承認も行います。国際理事会のもと、WVパートナーシップ事務局が、各国・各地域間の調整業務や技術的サポートを行っています。

WV全体の収入推移(億米ドル)



ワールド・ビジョン 全体の活動データ(2022年度)

組織関連

活動国数

約100カ国

スタッフ数

約35,000人

食糧支援を受け取った人

1,030万人

活動関連

開発援助

チャイルド・スポンサーシップで登録されている子ども

320万人以上

チャイルド・スポンサーシップによる地域開発プログラム(AP)の総数

1,206

チャイルド・スポンサーシップによる支援が届いている子ども

約1,600万人

緊急人道支援

緊急人道支援を届けた人

2,960万人

アドボカシー

ぜい弱な子どもたちのために実施された運動

210万件以上

ワールド・ビジョン・ジャパンについて

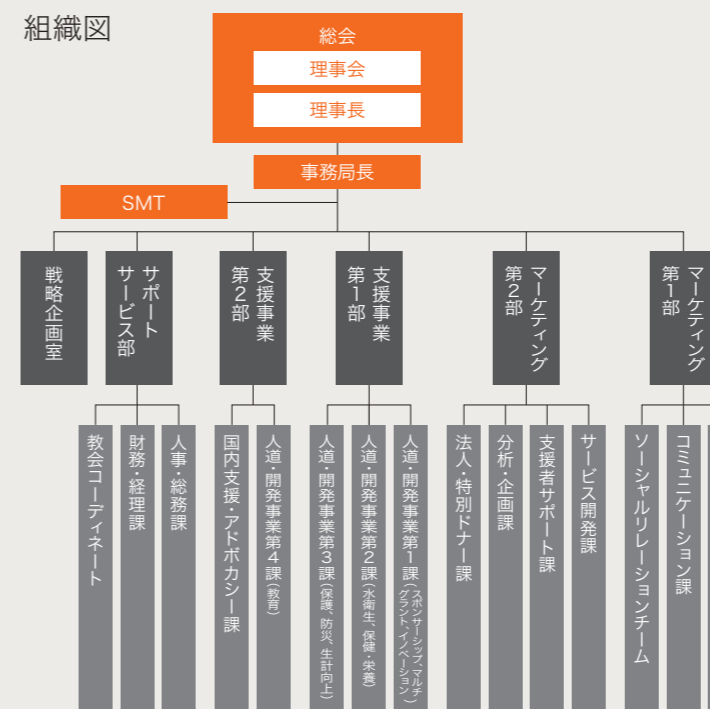
ワールド・ビジョン・ジャパンの始まり

WVは1960年代、日本でも両親を亡くした子どもたちが生活する施設等を通じて支援活動を行いました。その後、日本の経済成長と内外の海外支援に対する気運の高まりとともに、1987年10月に「ワールド・ビジョン・ジャパン」が設立され、独自の理事会を持つ組織として活動を開始しました。

1999年には「特定非営利活動法人」の認証を得て、法人格を持つ民間の援助機関となりました。また2002年5月には、国税庁より「認定NPO法人」に認定され、これ以降、当団体への寄付金は税制上の優遇措置を受けられるようになりました。また、その後のNPO法改正を受け、2014年8月からは東京都より改めて認定されています。



組織図



役員・親善大使(全員無給です)

- 理事長 片山 信彦 (前 特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン事務局長)
- 副理事長 飯島 延浩 (山崎製パン株式会社代表取締役社長)
- 理事 峯野 龍弘 (ウェスレアン・ホーリネス教団淀橋教会牧師)
- 理事 湊 晶子 (学校法人広島女学院顧問)
- 理事 三木 晴雄 (玉の肌石鹸株式会社相談役)
- 理事 安西 愈 (弁護士)
- 理事 安藤 理恵子 (玉川聖学院中等部・高等部学院長)
- 理事 木内 真理子 (特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン事務局長)
- 理事 富岡 徹郎 (国際基督教大学常務理事)
- 理事 チャールズ・バテノック (ワールド・ビジョン・インターナショナルパートナーシップリーダー)
- 理事 森 清 (社会医療法人財団大和会理事)
- 監事 中島 秀一 (日本イエス・キリスト教団荻窪栄光教会牧師)
- 監事 小西 孝哉 (元農林中央金庫監事)

親善大使 ジュディ・オング (歌手・女優・木版画家)

親善大使 酒井 美紀 (女優)

2023年10月1日時点

SDGsへの取り組み

WVは、子どもたちの健やかな成長を目指す活動を通じて、持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)の達成に向けた取り組みを進めています。

